令和３年１月１日発行（毎月１回１日発行）通巻第677号

林業福島

No. 677

題字　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長　齋藤卓夫

1
2021

監　　修■福島県農林水産部
表紙の写真■林　業　女　子

新たな復興・創生のステージへ

福島県知事
内　堀　雅　雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災から間もなく十年の節目を迎えようとしております。この間、県民の皆様の懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、福島県は着実に復興への歩みを進めてまいりました。

昨年は、双葉町、大熊町、富岡町の帰還困難区域の一部地域で避難指示が解除されたほか、ＪＲ常磐線の全線再開、福島ロボットテストフィールドの全面開所など、明るい話題も多くありました。

そのような中、新型コロナウイルス感染症が世界各国で急速に拡大し、私たちの生活は一変しました。

県といたしましては、引き続き、喫緊の課題である新型感染症対策はもとより、震災と原発事故からの復興・再生、令和元年東日本台風等災害からの復旧、地方創生・人口減少対策などに全力で取り組んでまいります。

まず、新型感染症対策については、ウィズコロナにおける感染拡大の防止と社会・経済の再生を両輪で進めていくとともに、感染者への差別や誹謗中傷の防止に力を尽くしてまいります。

次に、避難地域の復興・再生については、今年四月から第二期復興・創生期間がスタートします。引き続き、被災者の生活再建や生業の再生、廃炉・汚染水対策などの課題にしっかりと取り組んでまいります。

また、令和元年東日本台風等災害からの早期復旧に努めるとともに、災害を教訓に、命を守るための避難行動の促進を図るなど、災害に強い県づくりを進めてまいります。

さらに、人口減少対策については、子育て支援策等の充実や雇用の場の確保などに取り組むとともに、本県が持つ移住先としての魅力を積極的に発信するなど、「福島ならでは」の地方創生を推進してまいります。

今年七月の東京オリンピック・パラリンピック大会においては、これまで国内外から頂いた多くの御支援に対する感謝の思いと、復興が進んでいる福島の姿と魅力を広く発信するとともに、感染防止対策を徹底し、選手の皆さんを始め、福島を訪れる多くの皆さんにとって安全・安心な大会となるよう準備を進めてまいります。

ウィズコロナの状況においても、常に危機感とスピード感を持ち、最大限の効果を発揮するためには何が必要なのかを常に意識しながら、この難局を乗り越え、福島の新しい未来を形作るための挑戦を続けてまいります。今後とも、一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。

《も　く　じ》

とびら
新たな復興・創生のステージへ
福島県知事　内　堀　雅　雄……1
有限会社上原樹苗「天皇杯」受賞……2
新春特集（フレッシュ）……3～4
特集「震災十年」⑨
林業研究センターにおける震災関連課題について……5～6
山里に鳴り響く人馬一体の掛け声
古殿町の馬搬見学交流会の報告……7
普及指導員通信……8
森林管理署メモ……9
公社だより……10
木の文化を育む㉒……11
木材市況・ふくしま東西南北……12
はなしのひろば・お知らせコーナー……13

有限会社上原樹苗「天皇杯」受賞

福島県農林種苗農業協同組合

令和二年度（第五九回）農林水産祭の「林産部門」において、南相馬市の有限会社上原樹苗（代表取締役社長上原和直）が「天皇杯」を受賞しました。

農林水産祭は、農林水産省と（公財）日本農林漁業振興会の共催により、国民の農林水産業に対する認識を深め、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため国民的な祭典として行われています。表彰は「天皇杯」、「内閣総理大臣賞」、「日本農林漁業振興会長賞」の三賞からなり、「天皇杯」は最高賞となります。

「天皇杯」は、過去一年間の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞した全国四六五点から決定されたもので、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの七部門に授与されました。

表彰式は、令和二年十一月二三日、明治神宮での新嘗祭に併せて開催された農林水産祭式典において行われ、上原氏は七部門の天皇杯受賞者を代表して「収穫感謝のことば」を述べました。なお、本県での「林産部門」の天皇杯受賞は、今回で三回目となりました。

有限会社上原樹苗は、南相馬市原町区萱浜で明治初期に桑苗を生産したのが始まりで、昭和三〇年代に造林用苗木の生産を開始しました。東日本大震災の津波により、社屋や苗畑、機械の流出など多大な被害を受けながらも、「個人では無力でも社員一丸となれば、これまで受け継いだ技術を絶やすことなく、世の中のためになる仕事ができる」との強い想いから事業を再開・継続し、現在では森林の生物多様性に対応した苗木供給を目指し、緑化木等苗木も含めて、年間を通じ針葉樹・広葉樹を合わせ一〇〇種類以上の供給を可能とし、生産量も二〇〇万本を超えるなど、樹種数・本数ともに他に類を見ない規模を誇る生産者となりました。

また、重量物を扱う作業の機械化、従業員の七割を占める女性専用の休憩施設や従業員用のシャワー室の設置など、男女問わず働きやすい環境作りに配慮するとともに、育児介護休業規程など従業員が長く働き続けることができるよう各種制度も整備しています。

さらに、同社には苗木生産者にとどまらず、造林・伐採を主とする事業体も含めて全国各地からの視察や研修生を受け入れ、育苗技術の普及に努めています。

有限会社上原樹苗には、苗木産業を牽引する立場にとどまらず、地域の環境に応じた植栽樹種の提案など、持続可能な地域づくりを支援する企業として、今後更なる活躍が期待されます。

天皇杯を受賞した上原夫妻

有限会社上原樹苗の皆さん

新春特集（フレッシュ）
森林と林業の次世代を担うフレッシュな方々をご紹介します。

舘岩グリーンフォレスターを設立

舘岩グリーンフォレスター　星　祐治

福島県林研グループ連絡協議会の新しいグループを紹介します。

皆さんこんにちは！

私たちは舘岩グリーンフォレスターと申します。

設立の経緯としては、近年若い人たちの森林への関心が希薄になってきている中で地域林業の担い手として、また同世代等へもっと森林に興味を持ってもらいたいと思い、森林の活用や近年、野生動物による樹木の剥皮や田畑を荒らされる被害が急増している里山の整備等に関心を持っている若者に声をかけ、活動に参加してくれるメンバーを募り設立しました。

主な活動としては、野生動物による里山の獣害防止のための勉強会が、まずあげられます。地区内、里山林の利活用の検討や、近年注目されている森林をフィールドとしたアスレチック等いろいろな人が森林に関わり興味を持って頂ける活動をしたいと思っております。

設立して日が浅く、また経験も少ない私たちですがこれから活動の幅を広げられるよう日々勉強させて頂いています。

私たちの活動をとおして、地域の方々に森林整備や里山林の整備に関心を持っていただき、少しでも地域の皆さんのお役に立つことが出来れば幸いです。

子供を対象としたツリークライミングの様子

食農学類で学んでいます

福島大学食農学類（二年生）
小山　航平さん（郡山市出身）、篠崎　奏子さん（福岡県出身）
小島妃称乃さん（群馬県出身）、星　朋美さん（福岡県出身）

令和二年十一月十五日(日)第四五回福島県林業祭（二本松男女共生センター）の会場で、林業福島の読者に向けたアンケートに答えていただきました。

Q1　福島大学を選んだ理由

地元に活かせることを地元で学べることに魅力を感じました。

新しく設置される食農学類で、幅広く農学について学べるカリキュラムでした。

福島大学食農学類でしかできないこと、例えば鳥獣害対策や野生動物に関する授業など非常に魅力的だと思いました。

Q2　大学の活動について

一年の時は大学付近の農場で米作り実習や、授業では栄養学、生物学や様々な分野の概論を学び、二年は環境及びその視点から専門知識・技術を深めており、林業に関わる実習も増えました。今後は学際性や地域性を重視した授業や福島県内の各地域にある問題を解決するための実習も楽しみです。

Q3　今後の抱負（将来の夢や森林と林業に関わり）

将来は農林業関係の仕事、特に研究職に関心があるため、研究等を通じて農林業に貢献したい。

野生動物について学び、シカなどの鳥獣害により山が荒れてしまうことについて対策を学び、林業や環境に関わる仕事に就きたい。

すべての人が森林に関わり豊かな生活を過ごせるような世の中になると良いと考えています。

Q4　これから取得したい資格等について

測量士補、危険物取扱者、ビオトープ管理士、簿記、ＴＯＥＩＣ、施工管理技士、アロマセラピスト系（インストラクターなど）

福島大学食農学類２年生の皆さん
（第45回福島県林業祭会場にて）
ご協力ありがとうございました。

会津農林高校での取り組み

福島県立会津農林高等学校森林環境科　猪狩永太

私は現在会津農林高校の森林環境科の二年生です。私の住む会津地方は森林が多く、もともと自然が好きだったので当校への入学を決めました。

森林環境科は二年生から林業と造園のコースに分かれます。授業の他に測量などの実習、沼沢の演習林実習、チェンソーをはじめ建設機械等の資格取得などがあります。私は科目「課題研究」でウルシ、キリの専攻班に所属しています。その内容を紹介します。

ウルシの活動は私が入学する前、喜多方市の山林から種を採取したことから始まりました。種を発芽処理して実生ウルシ苗の栽培やＮＰＯはるなかのボランティア参加、苗の販売やウルシの実からロウを採る実験などをしてきました。また県外の優れた苗を集め、分根による栽培も行っています。育てた漆の苗は二年生のものを毎年会津若松市に販売し、市の植栽地に植林実習として参加してきました。ロウを取る実験はようやく成功し、金山町の方法を改良し簡単にできる方法として完成しました。今後は会津絵ロウソクの老舗「山形屋」とも連携をして進めていく予定です。

もう一つの活動は桐です。桐は福島県が質、生産量ともに日本一といわれています。しかし桐を育てる人も蓄積量もどんどん減少し、このままでは日本から桐が無くなると聞いていました。

昨年、福島県会津農林事務所の呼びかけのもと、会津桐苗プロジェクトチーム（うち四者が新規桐苗生産者、㈱斎藤桐店、佐久間建設工業㈱、ファーム年樹、当校）が結成され、郡山の福島県林業研究センターより病気に強い玉植苗の栽培方法を指導いただきました。昨年の試験栽培の結果、学校でも栽培が可能であるとわかり、今年から本格的な栽培がはじまりました。三月にはロックウールの播種を済ませ、秋には一〇〇を超える苗を育てることに成功しました。なお、六月には学校で玉植苗鉢替え講習会を行いました。そして十一月には三島の佐久間建設工業㈱の管理する植栽地に行ってプロジェクトチームの植栽に参加してきました。これらの活動で玉植苗の重さが問題となり、体力のある私たち高校生でも大変だったので改良をする必要があるとわかりました。来年度はもう少し小さな鉢を利用するそうです。

ウルシや桐の活動は、はじめは大変そうに見えましたが、やってみると意外とできるものです。そして活動していくうちに人とのつながりができ、いろんなアイデアも生むことができました。

私は自然が好きです。自然豊かな会津が好きです。この活動をとおしてたくさんの事を学び、将来につながるよう取り組んでいきたいと思います。

会津桐の植替え講習会　会場　会津農林高校

※玉植苗の購入などについては、佐久間建設工業㈱森林事業部 0241-42-7802 までご連絡ください。

林業に携わって

有限会社ウッド福生　大竹秀和

今年度㈲ウッド福生に採用されて早くも九カ月が経ちました。まだ分からないことが多く、日々学びながら過ごしています。

私が、林業という職業を選んだ理由は、高校生の時に林業の現場見学をする機会があり、興味を持ったのがきっかけです。そこから林業の作業について調べ、目標であった林業の仕事に就くことが出来ました。

最初は、道具を持っての傾斜地作業や暑さの中の作業に、すぐ疲れてしまいましたが、今では体力が付き、山を登るスピードも以前に比べ速くなってきたと思います。

地拵、植付、下刈と経験し、今は伐倒作業を行っています。足場が悪い場所、曲がった木、裂けやすい木、二股の木、片枝の木など様々な条件の木を思った通りに伐倒する先輩を格好良く思うと同時に、自分でやることの難しさを痛感しますが、自分が狙った方向に伐倒出来た時はとても嬉しいです。また風の音や鳥の声など自然に囲まれながらの昼食休憩は気持ちが癒され、綺麗になっていく山に達成感と清々しさを感じます。

まだ、知識や経験が浅く目の前の作業に精一杯ですが、今後の目標として、各作業の技術を向上させ効率の良い作業が出来るようになりたいと思います。そしてこれからも、基本を守りながらケガせず安全に作業していけるよう頑張っていきたいです。

特集「震災十年」⑨

林業研究センターにおける震災関連課題について

福島県林業研究センター企画情報部

林業研究センターでは、東日本大震災による津波被害に関する課題として、「海岸防災林の復旧」と、東京電力福島第一原子力発電所事故関連として、「放射性物質対策」に取り組んできました。ここでは、これらの課題の概要を紹介させていただきます。

「海岸防災林の復旧」について

地震に伴う津波により、本県海岸部の保安林（民有林）面積二六一㌶のうち約六割に相当する一五五㌶が消失しました。そこで早期に、かつ防災効果の高い海岸防災林を造成するため、県では、概ね林帯幅を二〇〇㍍とし、また植栽木の根張りを良くするために生育基盤盛土を施工することとしました。そこで、需要が増大する盛土材の確保と苗木増産への対応に関する研究等に取り組みました。

盛土材については、地元火力発電所から廃材として出されるクリンカアッシュを活用するために、相双農林事務所と協力しクリンカアッシュ盛土への植栽試験を行い、地上部の成長に影響がないことを確認し、クリンカアッシュの活用に寄与しました。

苗木については、マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ種子の増産のため、採種園（写真１）を稼働させるなど、苗木供給量を県内産で確保できる体制を整備し、令和元年度までに二〇〇万本分の種子を生産・供給することができました。また、マツ苗の低密度植栽試験を行い、初期活着率が通常の一〇、〇〇〇本／㌶植えと同等であること、また、半分程度の五、〇〇〇本／㌶の低密度においても、成林が期待できることが確認できました。（写真２）

造成開始から十年を経過しようとする現在、植栽苗木の枯損や生育不良が散見されています。現在、その発生現状と原因について主に土壌環境の観点から調査を行っており、今後、対応策の研究を進めてまいります。

写真１　抵抗性クロマツ採種園

「放射線関連課題」について

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、環境中に大量の放射性物質が放出され、県内の森林は広範囲にわたって汚染されました。このような状況において、森林利用や木材生産への影響が懸念されることから、その対応策を検討しました。

写真２　人工盛土での植栽試験

「森林環境」部門

森林内の放射性セシウムは、事故直後、大部分が地上部に分布していましたが、徐々に土壌表層五㌢㍍までの分布割合が増加し、地下部での蓄積が進んでいることが明らかになりました。

また、シイタケ原木として重要なコナラ、ミズナラでは、放射性セシ

ウムは、萌芽枝の梢端部が高い傾向がみられるとともに、落葉前に葉部の濃度が低下することがわかりました。また、梢端部の放射性セシウムは一年目から二年目に全ての調査林分で急減し、その後は緩やかな減少傾向を示しましたが、急減後の減少程度は林分により傾向が異なりました。（写真３）

材部の放射性セシウム対策として、施肥による放射性セシウムの吸収抑制方法をポット苗で検討し、効果があることがわかってきました。

写真３　萌芽試験地

シイタケ原木は、食品を生産する資材であることから、安全性が強く求められます。したがって、今後は、森林の継続的なモニタリングとともに、更新手法や施肥など施業によるセシウム低減技術を開発していきます。

「林産資源」部門

福島県内の空間線量率が〇・五μSv／hを超える民有林からの木材の搬出にあたっては、樹皮の放射性セシウム濃度が六、四〇〇Bq／kg以下の場合のみ搬出可能とされています（福島県民有林の伐採木の搬出に関する指針）。そのため、現場でのスクリーニング作業の省力化を目的として小型軽量で利用しやすいＧＭ管式サーベイメータを用いた樹皮の放射性セシウム137・134濃度の簡易測定手法を開発しました。（写真４）

写真４　ＧＭ管サーベイメータを用いた測定

きのこの分野では、ナメコ露地栽培において、赤玉土や鹿沼土を敷いて汚染された土壌とほだ木を離すことで放射性セシウム137濃度を十分の一程度に軽減できることが明らかになりました。（写真５）

写真５　ナメコ原木露地栽培試験地

今後の取り組みについて

このように多くの研究成果が得られてきましたが、林産物への放射性セシウム吸収抑制技術の開発など、研究途上の諸課題もあります。さらに、放射性セシウムの経根吸収による立木の汚染の将来予想を踏まえて、広葉樹資源の有効活用に向けて、汚染が低減される広葉樹林の造成技術の開発も必要です。

今後も生産者や地域の皆様の意見や要望を踏まえ、震災からの復興につながる試験研究にしっかりと取り組んでまいります。

山里に鳴り響く人馬一体の掛け声
古殿町の馬搬見学交流会の報告

福島大学　食農学類　農林資源経済研究室
ふくしま馬搬ネット　会長　林　薫平

○古殿町に来た「フルード」君

石川郡古殿町は、阿武隈山地の南部に位置し、豊かな杉の山に恵まれた山間地域で、林業と流鏑馬（やぶさめ）の町として知られます。流鏑馬は神事で、馬が活躍する華やかな場面ですが、地域での人と馬の付き合いはそれだけではありません。歴史的には、日常の農耕や荷運びなどの力仕事に活用され、人と親しみ、寝食をともにしてきました。

力仕事をして人の生活や生業を助けてくれて、最後に力尽きて倒れた馬には、感謝を捧げ、安息を願って馬頭観音の石碑を建ててまつりました。機械化が一気に進む前の昭和二〇年代までは、そのような風景が当たり前にありました。

平成に入り、二一年に同町に「馬事振興会」が立ち上がったのは、古くから地域の中で人とともに暮らしてきた馬との本来の関わりや、馬をいたわり感謝する気持ちを再生しようとしたためでした。振興会では、馬の世話を丁寧にして、子どもたちや地域の人たちに、馬とのふれあいの機会をつくってきました。

平成二九年に、北海道のばんえい競馬を引退した輓馬（ばんば）を譲り受ける話が出たことから、新たな事業が模索されました。当時五歳の牡馬（ぼば）で、体重は一㌧級です。鉄のソリを引いていた大型の馬であり、力強さが桁違いです。

三一年の四月に、同町の名所である鮫川沿いの桜並木を馬車に揺られてお花見をする企画が開催されました。輓馬の力で初めてこれが可能となりますが、丁寧な調教と、手綱を引く者との信頼関係が必須です。そのときに馬の名前が募集され、「フルード」と決まりました。

○「ふくしま馬搬ネット」設立

振興会では、馬の牽引力を生かす林業の技術である「馬搬（ばはん）」の再生を試みました。振興会理事の鈴木清彦さんの祖父がかつて得意としていたもので、切り倒した伐木の林内の運搬に馬の力を使います。ソリや鎖など専用の特殊な馬具を使うことはもちろん、人馬一体の息の合った協力を要する高度な技術です。特に、機械作業が困難な地形で一本一本の木材を選んで伐採するような目的には合っています。

馬搬は古くから伝えられてきた技術で、機械化や大規模化が進んでいる現在の条件の下でも実用性がありますが、さらに、今の山村で、森林を守り、都市市民を巻き込んで林業の大切さを多くの人で一緒に考えていくような仕組みをつくるために、馬搬の取り組みを広く伝えていくことに意味があると考えました。

そこで、馬事振興会を中核として、考えに賛同した地元の林業の老舗である水野林業と、いわき市を本拠地とする生活協同組合パルシステム福島も加わり、「ふくしま馬搬ネット」を三一年に設立しました。そして、パルシステムの「地域づくり基金」の支援をいただき、準備を重ね、令和二年十月に「馬搬見学交流会」を開催しました。

当日は県内を中心に集まった約七〇名の参加者が、古殿の森林の中で営まれる林業の技術を実際に見て、馬事振興会の皆さんとフルード君が人馬一体で掛け声をかけながら大径の杉材を運び出す迫力に息を飲みました。

見学後の交流会では、古殿町の新米のおにぎりや豚汁をいただきながら、森の豊かさを大切にして、林業を守っていくにはどうしたらよいか、口々に意見を出し合いました。馬搬木材の活用や都市農村交流の様々なアイディアやこれからの展開について続編で紹介します。

普及指導員通信

早生樹（ユリノキ、センダン）への試み

南会津農林事務所　五十嵐　正　徳

１　背景と目的

人工林が成熟し、主伐期に達した林分の伐採後の再造林（確実な更新）が課題となっています。将来、どんな樹木が必要とされ役に立つのか想定し「次の世代に、今、何を植えるのか」の選択が私達に課せられた大きなテーマとなっています。現場ではコウヨウザンやセンダンといった早生樹や、第１世代精英樹より開発された成長の早いエリートツリーの植栽が注目されています。

２　新たな造林樹種への早生樹の選択肢

早生樹やエリートツリーの地方での取組について概観すると、双方とも主伐が進行している九州、西日本での関心が高く取組が進んでいる状況にあり、実証植栽地の整備や研究が行われています。山行苗が生産されるまでには相当の年月を要する事となるため、将来を見据えて「適地適木」の原点に立ち、当事務所でも早生樹の導入について検討を始めたところです。

３　早生樹（ユリノキ、センダン）の選定理由

増殖を図る上で有利（大量に生産可能）な方法が自然交配種子を用いた苗木育成です。残念なことに当管内には種子源となる早生樹（ユリノキ、センダン、コウヨウザン、チャンチン…）が存在しません。

しかし、会津地域に範囲を拡大すると、何気ない散歩が功を奏し、街路樹や庭木にユリノキとセンダンが植栽され存在することが観察できました。この状況を鑑み、未だ緒に就いたばかりの早生樹の活用について、林業普及指導員は勿論、林業課職員が造林樹種の新たな選択肢についての知見や、今後の育苗体験を通して技術研鑽し、直面する再造林推進の一助にしたいと考えました。

図－１　センダンの種子

図－２　ユリノキの種子

４　今年度の取組

地区別研修において早生樹の採種と播種を企画し、11月19日に会津若松市及び喜多方市において、センダンとユリノキの採種を行いました（図－１）、（図－２）。ユリノキは翼果でパラシュートのように沢山の種子が舞い降りるため、傘を逆さに差して捕捉しました。

また、ユリノキは、採種後急速に発芽力が衰退することがこれまでに明らかになっています。そこで早速、南会津町の協力を得て苗畑を確保し、11月24日に慣れない作業ながらもセンダンも併せて樹種毎に播種床を作り、播種を行いました（図－３）。

図－３　ユリノキの播種

５　今後の取り組み

センダンは伊豆半島以西の本州、四国、九州での植栽は行われているものの、東北地方での植栽事例は殆どありません。今日までの知見を参考にし、来春、発芽状況や初期成長を観察するとともに、育苗後は伐採跡地へ植栽し、南会津管内での環境適応性について検証していきたいと考えております。

森林管理署メモ

「森で学ぼう 親子『子ども樹木博士』チャレンジ！2020」を実施

国民の森林・国有林

福島森林管理署

福島森林管理署では平成二六年度から、福島民友新聞社との共催で福島市土湯温泉近くの国有林内「きぼっこの森」（〝きぼっこ〟とは、〝こけし〟のことです。）において樹木博士の認定試験を開催しています。

今年度は、昨年の八月九日に「森で学ぼう　親子『子ども樹木博士』チャレンジ二〇二〇」と銘打ち、樹木博士になるための試験（イベント）を行いました。

イベント当日は、公募による親子四四名の参加者と、「二〇二〇ミス日本みどりの女神」井戸川百花さんを一日森林管理署長として迎え、時折雨の降る空模様のなかでの開催となりました。

会場は森の中の遊歩道（約七〇〇メートル）で行います。道沿いには約二五種の樹木があり、その中から樹皮や葉・使われる用途・匂いなど特徴のある樹木十五種を試験木に選びました。

試験前に参加者に樹木を覚えてもらうために七～八名の班毎に勉強会（解説）をしますが、これを若手職員が主に受け持ちます。普段の仕事では市民と接する機会も少ないことから、参加者によく判ってもらえる解説となるよう、図鑑やインターネットで調べたり、試験地で予習するなど、あらゆる方法を駆使して勉強していたようです。

勉強会が始まると、樹木の解説では趣向を凝らして、カエデの種を飛ばして見せたり、ミズメの皮を削って匂いを嗅いだりと、事前勉強を活かした滑らかなトークに参加者は熱心にメモをとりながら聞き入っていました。

また、昼の休憩時間も利用して樹木の枝先と葉をシートに乗せ復習を行います。

試験は家族毎に挑みますが、カンニングはなしです。解説を聞いて書いたメモも持って行けません。試験は約一時間かけ行いましたが、樹種が判らずあきらめる子や何回も遊歩道を行き来する子もいました。

試験後の採点の時間を利用して、参加者は木工クラフトに挑戦し、思い思いの作品を仕上げ楽しく過ごしました。

また、この間にはみどりの女神にやさしく澄んだ歌声を披露していただきました。

最後に一日森林管理署長を務めていただいたみどりの女神から「子ども樹木博士」の認定書を参加者全員に授与し終了となりました。

コロナ禍のなか、例年より参加人数を絞り、感染症対策を取りながらの実施となりましたが、子ども達はもちろん、保護者も楽しい体験ができたと喜んでいました。

このイベントは、多くの市民に森林に親しんでもらうことを目的としていますが、もう一つ、若手職員が樹種を覚えたり、教えること伝えることの難しさを感じる機会となり、市民との交流を通じた人材育成にも役立っていることから今後も継続したいと考えます。

１日森林管理署長「みどりの女神」

説明に熱心にメモを取る子どもたち

認定書を手にハイポーズ

公社だより

第2次緑の森づくり新生プランについて

公益社団法人
ふくしま緑の森づくり公社

当公社では平成二六年四月一日に公益法人への移行に併せ、森林の有する多面的機能の発揮のため、健全な森林資源の維持造成が推進されるよう、今後の公社の中期的な施策の基本的方向を明らかにし、当面五年間の具体的な目標を設定する経営改善計画書（緑の森づくり新生プラン【計画年度：平成二六年度～三〇年度】）を策定し、効率的な森林整備や木材の生産、販売対策など公社の経営改革に積極的に取り組んでまいりました。

「緑の森づくり新生プラン」が平成三〇年度で終了したことから、これまでの経営改善の取組みの成果と課題等を踏まえ、新たに五年間の経営改善計画「第二次緑の森づくり新生プラン」（令和元年～令和五年）を策定しました。

「第二次緑の森づくり新生プラン」ではこれまでの「効率的な森林整備」に加え、「市町村との連携による新たな森林管理システムへの挑戦」、及び「ＩＣＴ技術、新たな施業技術の活用」を重点取組事項としています。

このうち「市町村との連携による新たな森林管理システムへの挑戦」としては、効率的な森林整備において森林経営管理制度の実施の中心となる市町村と連携し、公社造林地と一体的な整備が図られる人工林の管理・施業の受託、技術支援等により地域と一体となった森林整備を進めることとしております。今後、社員市町村の取組み状況や意向の情報をいただきながら、意見交換等を進めて参りますので、社員市町村のご協力をお願いします。

また、「ＩＣＴ技術、新たな施業技術の活用」としては、航空レーザ計測データやドローン測量等を活用した公社造林契約地の数値化、データベース化による効率的な路網計画や施業計画、伐採計画の検討等により経営改善を進めることとしております。

※当公社の概要、第二次新生プラン等については、当公社ＨＰで公表しております。
（URL　http://www.fuku-rin.jp/）

木の文化を育む㉒

技術と伝統を後世につなぐ（株式会社たてぐ屋山岡）

郡山女子大学 人間生活学科 建築デザインコース 准教授　阿　部　恵利子

○はじめに

福島県中通りの北部に位置する二本松市では、三百余年の伝統を誇る二本松伝統家具が作られており、家具の町として知られています。その起源は、江戸時代前期の大名（後、陸奥二本松藩初代藩主）丹羽光重の二本松城改修の際、家具や建具を宮大工が作ったことにはじまります。一九九六年より毎年九月には家具工芸店が集まる〝二本松家具まつり〟が開催されるようになり、二本松の主な産業として発展しました。

○伝統文化の継承と技術の向上

株式会社たてぐ屋山岡 代表取締役 山岡正人さん（以下、山岡さん）は、二本松が誇る伝統家具の技術を活かし、建具や木製照明を職人の手仕事で一つひとつ丁寧に作っています。長年の経験と伝統ある技術を活かし、たしかな品質から生み出される製品には、地域の伝統文化の継承と職人の技術向上を願う想いが込められています。

娘（４人姉妹）に贈った黒柿の箪笥

○伝統の技を伝える

先代の故・山岡六郎さんは、少年時代から組子細工の修行を重ねるとともに職人としての志と確かな技術を習得後、建具業を始め、一九六五年に建具・家具製造業「有限会社山岡木工所」を創業しました。組子細工の技術は、これまでも多くの職人が六郎さんのもとで修業を積み、伝統工芸の素晴らしさを世に伝えています。山岡さんは先代の意思を引継ぎ、古来の組子細工の技術継承と向上、本物の素晴らしさを人々に伝えたい、と考えています。

○組子細工と消えゆく和室

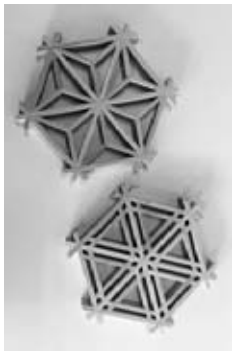
組子細工の技術は和室の障子や欄間にみられますが、それらの高度な技術は現代の一般住宅ではあまり見られなくなりました。時代の流れとともにライフスタイルが変化し、近年は和室離れが著しい傾向にあります。そんな状況のもと、山岡さんに組子細工を使用した照明器具の依頼があり、二年間デザインサンプルを試行錯誤し、制作にとりかかりました。

○和風照明「なごみ」の誕生

組子細工を使用した照明器具の制作には、県内の杉材と上川崎の手漉き和紙を使用しています。

二本松に伝わる上川崎和紙は、二本松市の上川崎地区に伝わる和紙で、その歴史は古く、平安時代に多くの貴族らが「みちのくの紙」として愛用したと言われています。照明に上川崎和紙を使用することで、白熱灯のやわらかな灯りが和やかな雰囲気をつくります。

建具製作技術を駆使して制作しているため、照明器具の側面は建具のふすまのように取り外し可能な仕様となっており、照明の雰囲気を変えたい時は側面を外し、別のデザインに交換することも可能です。



組子細工のコースター

こうして誕生した和風照明は「なごみ」と命名されました。

○手作りで想いを込めて

「なごみ」は、熟練の職人が古来より伝わる組子の技術を駆使してつくられています。デザインを一から考え、試行錯誤を繰り返しながらも、伝統技術の継承とお客様に本物を届けたい、という想いでつくった完全オリジナルの照明です。と山岡さん。

○まとめ

洋の空間でも和の要素を自然な形で取り入れる…和風照明「なごみ」は和モダンな空間にも調和するデザインです。古来より伝わる本物の良さを生活に取り入れ、おうち時間を豊かにしてみませんか。

上：和風照明「なごみ」　下：ベンチ箪笥

木材市況

九月の原木市場への入荷量は、前月比一一㌫増（前年比二三㌫減）の一四、九六八立方㍍となっている。

販売量は、前月比一七㌫増（前年比二二㌫減）の一五、一一二立方㍍となっている。

十月の価格は強含みとなっている。

素素材の価格〈工場着価格〉（2020年10月15日現在）

（単位：㎥当り千円）

区分		形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	中通り地方 当月	中通り地方 前月差	会津地方 当月	会津地方 前月差	浜通り地方 当月	浜通り地方 前月差	県平均 当月	県平均 前月差
一般用材	小	5～9	4.00	並	スギ	8（5～10）		（0～0）		9（9～9）		8（5～10）	
		10～14		並	スギ	12（12～12）		（0～0）		11（11～12）		12（11～12）	1
	中	14～22	3.00	並	スギ	11（9～14）		14（14～14）		13（12～13）	1	12（9～14）	
				並	ヒノキ	14（13～15）	2	（0～0）		15（14～16）		14（13～16）	
			6.00	並	スギ	15（15～16）		10（10～10）		17（17～18）		15（10～18）	
				並	ヒノキ	24（23～25）		（0～0）		22（20～24）		23（20～25）	
		20～28	3.65	並	スギ	12（12～12）	1	11（10～12）		12（11～13）		12（10～13）	1
			4.00	並	スギ	11（10～12）	1	10（10～10）		12（11～13）	1	11（10～13）	1
				並	アカマツ	9（8～10）		（0～0）		9（9～10）	1	9（8～10）	
			1.80	並	アカマツ	6（5～8）		（0～0）		8（8～8）		7（5～8）	
外材	米材（定尺）	30以上	10.00	並	米ツガ	（0～0）		（0～0）		30（30～30）		30（30～30）	
				並	米マツ	28（28～28）		30（30～30）		28（28～28）		29（28～30）	
	北洋材（定尺）	28以下	3.80	並	エゾマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）		25（25～25）	
			4.00	並	アカマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）		25（25～25）	
				並	カラマツ	（0～0）		（0～0）		25（25～25）		25（25～25）	
パルプ用材				並	マツ	7（7～7）		（0～0）		7（7～7）		7（7～7）	
				並	広葉樹	10（10～10）		（0～0）		（0～0）		10（10～10）	

区分	形量 径(cm)	形量 長さ(m)	材質	樹種	会津共販 当月	会津共販 前月差	いわき 当月	いわき 前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	（0～0）		7（6～9）	
	13～14		並	カラマツ	（0～0）		8（7～9）	
	16以上		並	カラマツ	（0～0）		10（9～12）	

注）1．前月差の△印は値下りを示す。
2．（ ）内は各地域の価格幅、（ ）外は各地域の平均的価格を示す。
3．一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
4．各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

ふくしま東西南北

おすすめ？スポット無行沼

会津農林事務所森林林業部　主査　山河　周

今年は、新型コロナウイルスの影響により、人が集まる観光地や名店等に出歩く機会がめっきり少なくなりました。今回は趣味のプランクトン採取のため訪れたことがある喜多方市の「無行沼」について紹介します。

喜多方市街地から旧米沢街道を北に八㌔㍍、岩月町治里から東に二㌔㍍の山中にその沼があります。最も近くの集落から歩いて三〇分ほどです。

無行沼（ゆきなしのぬま）の名前の由来は、旧岩月村（現在の喜多方市岩月町）の「岩月町小史―古事と民話・伝説―」によると、昔は、山道を挟んで男沼と女沼のふたつの沼があり、山道を人が通ると、女沼の主が秋波を送って沼に引き入れようとし、それに男沼の主が嫉妬して怒り、雷鳴激しく雲を呼び大風吹き荒れて激波が通行人を飲み込み多くの人命が奪われた。このため、一度この沼に来た者は生きて帰れないことからきており、人々から恐れられていました。その後それを聞いた某大師が、魔魅退散を祈願したところ主達は鎮められ女沼は干上がり、人々は安心して山道を往来できるようになったといわれています。

行ってみると、水は透明度が高く、水草等は少なく釣り人をたまに見かけましたが、あまり多くは釣れない様子でした。プランクトンも見栄えのよいものは採取できませんでしたが周辺には休憩するのに適した見晴らしのよい開けた場所もあり、山中でまったりピクニック等したい方にはおすすめ？の場所です。

はなしのひろば

目に見えないモノ

正月飾りで歳神様をお迎えし「今年も健やかでありますように」と手を合わせ、令和三年が始まった。この正月飾りの内側は清浄な世界とされ、穢れが入らないよう境界の標（しるし）となるが、この清浄さも穢れもまして歳神様も目に見えない。頼れるのは自分の勘どころと観心だろうか。そんなことを思い進めると、かつて小耳情報で得た観音様にまつわる精密機器メーカーの話を思い出した。人々の苦しみを除いたり、お願いごとを聞いてくれる「観世音菩薩」という慈悲深い仏様がいらっしゃる。この観音様は「音を観る」ということから「音が観えるぐらい研ぎ澄まされた感をもつ」と云われている。創業者の一人吉田五郎氏は、熱心に観音様を信仰しており、音をも捉えられるほどのレンズを創りたいと国産初の精密小型カメラの試作機に「ＫＷＡＮＯＮ（カンノン）」と名付けた。確かに人は、見えないモノを見える形にする表現欲がある。それが言葉だったり、絵だったり、音だったり、製品だったり。

ところで、東京の知人からの年賀状には「新年にあたり、今ある勘・感・観を働かせて日々を送ることにします」と書かれていた。そのシンプルで深みのある言葉の力にいきなり心がつかまれた。思えば、日々自分の「かん」を働かせ生きているが、そこから日常のあたりまえの人生加減や豊かさを身につけてきているのかも知れない。

「勘・感・観」どの「かん」も見えないが、ひとそれぞれの方法で日々みがき続ける価値がありそうだ。

（都）

表紙の写真

「林業女子」
第17回ふくしま森林・林業写真コンクール　奨励賞
受賞者　菊地美雄さん（福島市）
撮影場所：霊山町石田
コメント：若い女の子なのに頑張っていると思いました。

編集　福島県内四森林管理署
発行　福島県森林・林業・緑化協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究・整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
発行人　水戸典明
印刷　陽光社印刷株式会社
（福島市中町五番一八号県林業会館内）
（定価　一一〇円）

お知らせコーナー

第53回花いっぱいコンクール受賞者決定

花を愛する心と豊かな情操をはぐくみ“郷土を花と緑で飾ろう”の趣旨のもと、健康で明るい「福島県花いっぱい県民運動」の一環として実施された「第53回花いっぱいコンクール」の受賞者が決定され、令和２年11月27日（金）に表彰式が行われました。

なお、福島県知事賞、福島県教育委員会教育長賞及び福島県森林・林業・緑化協会長賞を受賞された団体は、次のとおりです。

県森林・林業・緑化協会長賞表彰（たんぽぽ会）

☆福島県知事賞
会津坂下町立坂下南小学校
☆福島県教育委員会教育長賞
喜多方市立第一小学校
☆福島県森林・林業・緑化協会長賞
たんぽぽ会（郡山市）

森林・林業担い手育成セミナーを開催します!!

森林・林業に意欲と技術力を有する優れた担い手の育成・確保を支援するとともに次世代のリーダーとなる人材の育成や森林・林業に関する情報を提供するため、下記によりセミナーを開催します。

１　日　時　令和３年２月13日（土）13:30～16:00
２　場　所　ビッグパレットふくしま
４階プレゼンテーションルーム
（郡山市南２丁目52番地　TEL：024-947-8010）
３　講　師　餅田治之 先生（大日本山林会副会長）
幡　建樹 先生（東京大学アジア生物資源環境研究センター特任研究員）
４　テーマ　「脱・国産材産地時代の林業経営のあり方in福島」
５　対象者　森林組合、林業事業体、市町村、県等の職員約70名
６　後　援　福島県、県森林組合連合会、県木材協同組合連合会
７　申込み及びお問い合わせ先
（公社）福島県森林・林業・緑化協会
林業労働力確保支援センター
TEL：024-521-3270　FAX：024-521-3246
メール：fukusien@violin.ocn.ne.jp
８　申込期日　令和３年２月１日（月）

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。

1 火災
山火事で受けた損害

2 風害
暴風による根返り、幹折れなどの損害

3 水害
豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害

4 雪害
大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害

5 干害
乾燥による枯死などの損害

6 凍害
凍結、寒風などによる枯死などの損害

7 潮害
潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害

8 噴火災
火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255㈹

または最寄りの森林組合

イワフジの GP シリーズ

GP-35B グラップルプロセッサ

IWAFUJI INDUSTRIAL CO., LTD.

傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

・最大 38 度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
・サイドカッター解除機能により曲がり材に対応
・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材

最新の GP-8 コントローラを搭載

・5.7 インチカラー液晶ディスプレイによる多彩な情報表示
・感圧式タッチパネル採用により操作性が向上
・A,B,C,D の 4 コード毎に 4 種類、合計 16 種類の測長設定値
・樹種を 4 種類登録でき、個別に測長調整値の設定が可能
・材積集計機能を標準で搭載

新開発のスタッドローラ（オプション）

・鉄輪の全周に装着された無数のスタッド（鋲）が材を強力に捉え、送りモータのトルクを伝えます。
・特殊形状のスタッドを一体化したシンプルな構造で、メンテナンスが容易

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

http://www.iwafuji.co.jp/

JAB CM009

（南東北支店） 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168
（本社・工場） 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西 5-1
（支　　店） 札幌・東北・南東北・関東・中部・関西・中四国・九州

林業福島　一月号　通巻第六七七号

令和三年一月一日発行
（毎月一回一日発行）

監修　福島県農林水産部
編集発行人　水戸　典明

発行所　公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島市中町五番十八号　県林業会館内

定価一一〇円
年間購読料一、九八〇円（税・送料込）

レインボー薬品の薬剤と資材

緑地管理の未来をひらく

わたしたちは、人と自然の調和を考えながら、より良い緑の環境づくりを目指しています

松くい虫予防薬剤

ヤシマスミパイン乳剤
スミパインMC
マツグリーン液剤2
グリンガード・NEO

くん蒸剤

ヤシマNCS

くん蒸用生分解性シート

くん蒸与作シートハイバリア

ハチ退治

ハチノックL（巣処理用スプレー）
ハチノックS（携帯用スプレー）

新商品　**猪レスSTOPテープ**　**ヒルノックWスプレー**　**ヒルノックW**

レインボー薬品株式会社
東京都台東区上野1−19−10　お問い合わせ TEL. 03(6740)7777　平日 9:00〜17:00（土・日・祝日は休み）

ZENOAH®

人と共に　緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc
／
GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR

刈幅：1500mm　出力：27.5kW

SR3100

破砕径：200mm　出力：18.4kW

ハスクバーナ・ゼノア㈱ 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1